

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	京都大学	整理番号	A01
プログラム名称	京都大学大学院思修館		
プログラム責任者	北野 正雄	プログラムコーディネーター	川井 秀一

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、文理融合、トランスディシプリナリを特徴とし、人類と地球の生存に関する複雑かつ複合的な諸問題の解決を図る総合的学問として「総合生存学」を提唱し、それを基盤にして八思、熟議等のカリキュラムによって幅広い知識を涵養し、俯瞰力を養うとともに、国内外インターンシップや学生が主体的に問題設定、企画を行うプロジェクトの実践等を通じて実践力を付け、社会的課題を解決していく人材を育てようとする学位プログラムが構築されている。特に、海外での武者修行の経験等によりプログラム学生のグローバルリーダーとしての自己形成に大きな効果をあげている点は評価できる。また、産業界や行政機関、国際機関との協力体制が構築されているほか、研修施設等の整備が充実している点も評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、多様な問題意識を持った学生同士が切磋琢磨しつつ、学問的バックグラウンドを構築し、海外の現場で経験を積むことにより、柔軟で強靱な実践力を蓄え、国際的に活躍できる人材として成長しており、国際機関等との協働やベンチャー企業の立ち上げなどを通して、自分に適した多様なキャリアパスを見出している点は評価できる。

事業の定着・発展については、7年をかけてプログラムは徐々に充実し、本プログラムに対する学内のサポート体制及び学外のネットワーク体制も構築され、定着してきている様子が見え、プログラム継続のための資金的裏付けも準備されつつある点は評価できる。その一方で、学位取得要件に柔軟性を持たせてその普遍化を図ることや、「総合生存学」の学理を体現した指導教員の育成・研修並びに相互理解の増進、入学者選抜の際の適性を見極めなどについては、今後一層の努力が期待される。また、京都大学では本プログラムをはじめとする博士課程教育リーディングプログラムを踏まえ、「国際高等教育院」に大学院共通科目が既に開講されるなど、大学院教育改革への今後の波及効果が期待される。